

## 9章：「中国人とその過去」 一般中国人の歴史意識を探る -重慶での初期調査の結果より- “Chinese and Their Pasts”

Exploring Historical Consciousness of Ordinary Chinese -Initial Findings from of Chongqing-

担当：池尻良平（東京大学大学院情報学環）

ikejiri@iii.u-tokyo.ac.jp

### ■著者情報

著者名：Na Li（中国・浙江大学歴史学部 教授/研究員）

経歴：マサチューセッツ大学で都市・地域計画の博士号を取得し、  
パブリック・ヒストリーの Graduate Certificate も取得。

研究関心：パブリックヒストリーと都市の保存。

“Chinese and Their Pasts”プロジェクトも実施。

主要な業績：『Kensington Market: Collective Memory, Public History,  
and Toronto's Urban Landscape』（University of Toronto Press, 2015）

→多様性の高いトロントの Kensington Market における、エスニックマイノリティの起業家を調査した書籍。都市景観の解釈に集合記憶を取り入れており、都市保存のための CSNA アプローチ（a culturally sensitive narrative approach）を提案している。

備考：A National Journal of Public History の編集者。国際的な会議の理事も務めている。



### ■重要な用語

- ・ sense-making | 意味づけ
- ・ Historical Activity | 歴史に関する活動
- ・ site | 遺跡
- ・ material culture | 物質文化

### ■議題

- ①歴史意識の調査結果を比較する場合、どういう国間・地域間・対象間で比較すると興味深い結果が出そうか？

## ■中国におけるパブリックヒストリー：スケッチ (pp.125-127)

- ・情報技術(インターネット、スマホ、ソーシャルメディア)の発展で、中国が根本的に変わった
  - これまで不可能だった情報にアクセスできるようになった
  - 歴史的な問題を議論する公共空間が広がった
- ・中国のパブリックヒストリーを考える上での重要な歴史的事象
  - 1966-76年の文化大革命(蒐集物が消失し、その後、検閲の影響が入った)
  - 1978年以降の「改革開放」(博物館建設ブームの到来)
  - 2010年以降の5ヵ年計画(美術館の発展が目標になる)
- ・中国におけるパブリックヒストリーの拡大は、過去の不穏な関係性を振り起こすにも関わらず、市民権の追求、現代中国のアイデンティティの追求と見なすことができる
- ・2013年の全国会議で、パブリックヒストリーの実践が学問領域よりも先を行っていた
  - 歴史家が、大衆の歴史的な感覚や感性を理解していないとしたら、どう伝えるべきか?
  - 学問的な歴史観と一般的な歴史観はどう違うのか?
  - (これらの議論を踏まえ)歴史家と歴史教育者はどのような役割を果たすべきか?
- ・本章が扱う問い=「一般中国人は過去についてどう考え、学び、用いているのか?」

## ■歴史、記憶、歴史意識 (pp.127-128)

- ・著者は歴史意識を、「過去、現在、未来についての理解」と「その理解が個人の多様なジャンルの意味づけのプロセスの出現に収束していく様子」と捉えている
- ・意識構築プロセスは、集合記憶、道徳、教育学という相互に関連する3領域に分かれている
- ・”Chinese and Their Pasts”プロジェクトは、歴史意識と集合記憶が関係するということを前提に、多様なジャンルで、一般中国人の歴史意識を理解することを目的にしている
  - 一般中国人における歴史意識の、物質的、物語的、教訓的、道徳的なジャンルを探究する

## ■”Chinese and Their Pasts” プロジェクト (pp.128-130)

- ・このプロジェクトは、中国がより自由になり、前例がないほど情報の流れや創造的な知識の共有、歴史の消費が拡大しているという21世紀に入ってからの15年間の社会的文脈において、多角的な視点から(パブリックヒストリーを)探究することを目的にしている
- ・このプロジェクトが取り上げる歴史全体に関するテーマ
  - 歴史、伝統、国民の記憶・神話の作成/家族史：私的な記憶とパブリックな物語/  
パブリックヒストリーとしてのビジュアル化/真正性の追求：情報源の信頼性/  
パブリックヒストリーの場所や遺跡/少数民族：代表か?抑圧か?/  
台湾からの声：異なる歴史観/歴史とメディア/歴史意識と歴史教育

・この調査が取り組む6つの具体的なテーマ

- |                          |
|--------------------------|
| ①過去に関する活動                |
| ②過去に関する情報源の信頼            |
| ③特定の機会において人々が感じる過去とのつながり |
| ④様々な過去の重要性               |
| ⑤パブリックヒストリーの場所や遺跡の重要性    |
| ⑥統計データ                   |

- ・この初期調査はアメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア、カナダの調査を参考に作成・実施し、他国の調査結果との比較可能化を目指した。一方、全国的に代表サンプルを集めたが、横断的な意識に関する詳細な分析はできていない
- ・中国の事情を踏まえた、先行研究の調査との相違点
  - パブリック・ヒストリーの場所・遺跡を重視している（今回は重慶市の主要な史跡）
  - 調査では、新しいメディアでのデジタルストーリーテリングを採用している
  - 各セクションで用意された質問を聞いている
- ・トレーニングを受けた大学生が、重慶市でインタビューを実施
- ・コアサンプルは425名。さらにサブサンプルとして、台湾から30名、少数民族から40名、重慶市の主要な博物館から85名も取得。

## ■初期調査の結果：記述統計の概要（pp.130-138）

### ①歴史に関する活動

- ・過去12ヶ月で回答者が参加した、過去に関連する活動で最も多かった（80%以上）のは、「写真・ビデオを撮ること（家族写真の閲覧含む）」、「映画（ドキュメンタリー含む）やテレビ番組の視聴」、「家族等の集まりへの参加」
  - 集合記憶と個人の記憶が重なり合いやすいことを示している
  - 個人の記憶や家族の記憶は、ノスタルジックな歴史的消費と結びついており、過去と積極的に関わっていることが確認された

### ②情報源の信頼

- ・最も信頼できる歴史の情報源として挙げられたのは、「資料館」（87.79%）、「博物館」（85.97%）、「史跡やモニュメント」（83.25%）、「個人や目撃者の証言」（81.20%）
  - 人は動機や背景などで物事の解釈が異なるため、物質の方が信頼できるとの回答が多い
  - 物質文化が専門家によって解釈されれば、信頼性の高いものと思われる
  - 公的機関の権威が中国人の信頼度の心情に影響を与えている
- ・「大学の歴史講義・研究者」（67.89%）が「高校の歴史教師」（43.12%）よりも上位

→歴史の専門家の評価が高い

- ・「家族の物語」は比較的上位（61.08%）にランクされている  
→家族が嘘をつくはずがないと思っていることが影響している
- ・「政治家」（12.76%）と「メディア関係者」（13.77%）が最も低い順位になっている

### ③過去とのつながり

- ・「歴史博物館、史跡・記念碑、歴史地区・都市への訪問」（75.59%）が最上位  
→直接的に、本物の歴史的体験ができると考えている  
→物質文化は、過去に起こったことを説得的に語りかけるという回答者もいた
- ・「公的な記念日を祝う」（55.15%）、「過去に関する本を読む」（60.48%）も上位  
→前者は、集合記憶の一部になっていることを誇りに感じている回答者が多かった
- ・「学校で歴史を学ぶこと」（42.33%）は平均値くらいの順位

### ④様々な過去の重要性

- ・「中国の過去」（64.86%）と「自分の家族の過去」（62.32%）が上位  
→国の歴史と家族の歴史を関連付けている回答者が多かったのが特徴的  
＝国家を1つの統一体として認識しており、各家族と国家が区別されていない状態
- ・「自分のコミュニティの過去」や「自分の政治的な所属先の過去」は低い  
→中国では「コミュニティ」という概念が育っておらず、政治団体の所属も少ないため

### ⑤パブリックヒストリーの場所や遺跡の重要性

- ・「過去12ヶ月間に公共の歴史に関わる場所を訪れたことがありますか」という質問に対して、81%近くの参加者が肯定的に回答した  
→重慶市の主要なパブリックヒストリーの場所や遺跡に対する印象や態度をインタビュー
- ・参加者の大半は、これらの歴史的な場所を訪れることで何らかの歴史的知識を学んでおり、その経験が本物であったと回答し、展示されている物質文化を信頼していた
- ・一方で、過度な商業化に対する否定的な意見もあった

※池尻註：⑥統計データの調査結果の紹介はなかった

## ■結論：中国におけるパブリックヒストリー構築の準備パターン（pp.128-139）

- ・中国では、検閲されることが多いにも関わらず、過去を公的に消費する場が拡大している
- ・初期調査によってわかった、中国のパブリックヒストリー構築の準備的なパターン
  - ①一般中国人は、物質文化を説得力の高いものと考えている
  - ②一般中国人は、個人史、家族史、地域史に強い関心を持っている
  - ③一般中国人は、組織や専門家の権威を尊重する

- ・中国の歴史家、カリキュラム担当者、歴史教育者は、パブリック・ヒストリーの構築パターンを見極めつつ、カリキュラムに組み込むことが必要になる
- ・一般中国人の歴史意識をより把握し、中国でのパブリック・ヒストリーを発展させるには、パブリック・ヒストリアンの存在も必要になる